

感染症についてのお知らせ

令和5年
12月号

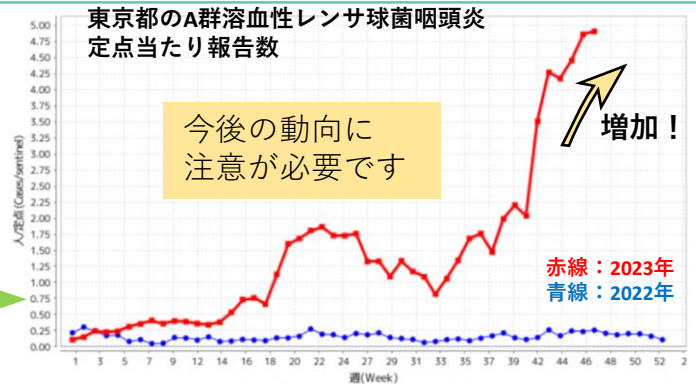


墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

東京都内の感染症流行情報

第47週（11月20日～11月26日）の流行情報

・インフルエンザ 注意報レベルが継続	
東京都 16.38人/週	前週（12.25人/週）
墨田区 16.25人/週	前週（14.13人/週）
・咽頭結膜熱（プール熱） 警報レベルが継続	
東京都 3.53人/週	前週（3.51人/週）
墨田区 2.60人/週	前週（0.60人/週）
・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加！	
東京都 4.91人/週	前週（4.86人/週）
墨田区 2.20人/週	前週（2.60人/週）



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増えています！



◆どんな感染症？

A群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症です。学童期の子どもに最も多く、3歳以下や大人ではあまりみられません。患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込んだり（飛まつ感染）、細菌が付着した手で口や鼻に触れて（接触感染）感染します。接触の機会が増えるときに起こりやすく、家庭内、学校などの集団での感染も起こります。

◆症状は？

潜伏期間は2～5日です。症状には、突然の発熱（38℃以上）、咽頭発赤、苺状の舌などがあり、しばしばおう吐もみられます。熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。合併症には肺炎、髄膜炎、敗血症、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などがあります。

◆治療は？

抗菌剤による治療を行います。合併症を防ぐため、症状が改善しても主治医に指示された期間、薬を飲むことが大切です。喉の痛みがひどい場合は柔らかく薄味の食事を工夫し、水分補給を心がけましょう。

※インフルエンザや咽頭結膜熱といった抗菌剤が効かない感染症も同時流行しているため、自己判断で抗菌剤を服用する事はせずに医師や薬剤師の指示に従って治療しましょう。

こまめに！正しく！手洗いをしましょう！

現在、流行しているインフルエンザや咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎などの予防には、正しい手洗いが有効です。特に、咽頭結膜熱の原因であるアデノウイルスや感染性胃腸炎の原因であるノロウイルスにはアルコールが効かないため、予防には正しい手洗いを確実にすることが大切です。外出先から帰ってきたとき、トイレの後、食事の前、調理の前後などに手洗いを行いましょう。

正しい手の洗い方



引用元：厚生労働省『一般的な感染対策について』
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000593493.pdf>)

20秒以上
石けんを使って
手洗いをしましょう！



洗い終わったら、十分に水で流して、
清潔なタオルやペーパータオルで
水分を拭き取りましょう

「HIV」「エイズ」って何？

HIVとは「ヒト免疫不全ウイルス」のことですが、HIV感染＝エイズということではありません。エイズとは、HIVによって免疫力が低下し、普段はかからない弱い病原体に感染して様々な症状が出た状態をいいます。

HIVに感染しても長い間症状がないため、検査をしないと感染しているかわかりません。

HIVに感染して治療をしないと、数年から十数年でエイズを発症します。治療が急速に進歩しており、早期発見によって、治療をしながら感染する前とほぼ同じように生活することができます。

✓主な感染経路

性行為による感染、母子感染、血液感染がありますが、現在、国内の主な感染ルートは性行為によるものです。

患者の咳や汗をはじめ、風呂やプールの共用で

HIVに感染する事はありません。

✓治療や予防に関する新たな考え方

U=U (ユー・イコール・ユー)

「Undetectable=Untransmittable」の略。ウイルスが検出されなければ感染させないという意味です。HIVの治療を受けて、血液中のウイルスが継続的に（6か月以上）検出されなくなれば、性行為でも他の人へ感染させることはない科学的に証明されています。ただし、他の性感染症予防のためにも、コンドームの使用は有効です。

👉エイズや性感染症についてもっと詳しく知りたい方はこちら！

保健所では匿名・無料でHIVの検査を受けられます

墨田区保健所の検査



原則月1回実施
梅毒も同時に
検査可能

東京都HIV検査情報Web



検査イベントや
都内の相談所を
知りたい方は
こちら

東京都性感染症ナビ

検索

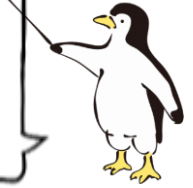


どのくらいの人HIVに感染、エイズを発症しているの？

2022年におけるHIV感染者・エイズ患者報告数

	全国	東京都
HIV感染者	632件	235件
エイズ患者	252件	53件

全国では、HIV感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数が、2003年以来、1000件を下回りました。しかし、感染が発見された時、すでにエイズを発症していた方が3割近くいる状況です。

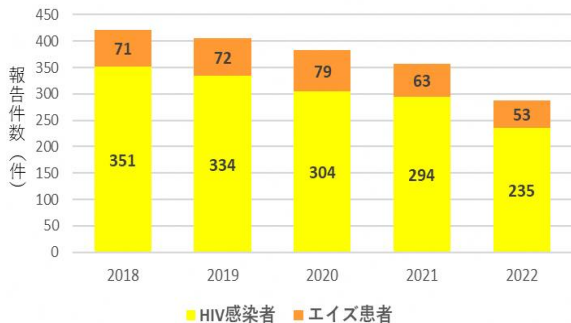


参考：令和4(2022)年エイズ発生動向概要（厚生労働省エイズ動向委員会）

東京都の状況

- ・ HIV感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は減少傾向にあります。しかし、感染が発見された時、すでにエイズを発症していた方は新規報告数の2割近くいる状況です。
- ・ HIV感染者の報告数は、特に20～30歳代で多く、全体の7割以上を占めています。
- ・ エイズ患者の報告数は、30歳代が最も多く、次いで50歳代、40歳代の順に多い状況です。

HIV感染者・エイズ患者報告数の推移



2022年におけるHIV感染者・エイズ患者の年齢別報告件数

